

日本美術×イタリアの技による究極のアート
「SICIS 伊藤若冲コレクション」に新絵図が登場



2018年2月21日（水）株式会社トヨーキッキンスタイル（代表取締役社長 渡辺孝雄）は、SICIS（シチス）よりベネツィアンモザイクアート「SICIS 伊藤若冲コレクション」新作の発売を開始いたします。

SICIS 伊藤若冲コレクション | SICIS Jakuchu Collection

SICIS 伊藤若冲コレクションは、トヨーキッキンスタイル代表取締役渡辺孝雄をキュレーターとして、ベネツィアンモザイクアートブランド「シチス | SICIS」とコラボレーションを行った事で誕生。江戸時代を代表する絵師として有名な若冲の作品を、シチスの手によって忠実に再現しました。

作品を SICIS のアートコレクションとして生まれ変わらせるために最も重要なのは、オリジナルの作品を尊重し、作者が描いた作品の詳細を深く表現することです。

特に伊藤若冲作品は綿密に描かれた多くの細かい部分（花びら、葉、目、羽、とさか等）で構成され、SICIS ブランドの壁面モザイクの中で最も複雑なアーティスティックコレクションのひとつとなっています。

これを成し遂げる為には SICIS の擁するモザイクアーティスト達が不可欠です。彼らは 5 年間に及びモザイクに特化した美術学校で様々な知識やノウハウを専門に学び、プロフェッショナルとなります。

輪郭線がなく陰影の濃淡や重なりで、平面上の対象物を立体的に見せようとする表現に長けた伊藤若冲の作品を再現するのに、うねりや表面の表情が豊かなモザイクガラスは適していました。

全ての作品はハンドクラフトの才能豊かなアーティスト達による、微細なガラスモザイクチップの集中的で精密な手仕事でつくりあげられています。

また彼らは、作品の持つ陰影を再現するために、どのようなシリーズのどのようなカラーを選択すべきかの知識と豊かな経験も兼ね備えています。

伊藤若冲作品の特徴でもある裏彩色の技法を用いた透き通るようなグラデーションや、顔料を盛るような立体的な着色を、モザイクガラスを熟知した SICIS のアーティスト達が見事に再現しています。

現に伊藤若冲の作品を再現するためには SICIS の全てのガラスシリーズが用いられています。

全ての作品におけるディテールのクオリティの高さは、実際に実物を見ていただければ一目瞭然です。

類い稀な技術と環境を兼ね備えた SICIS のみがオリジナルの作品を再現でき、それを完全な形で作り出すことができるのです。

日本が産んだ才能とイタリアの技術、ふたつの文化が出会い実現した SICIS 伊藤若冲コレクションは、世界中の様々な文化や様式をもつ空間に、新しいアート作品として選ばれているのです。

■New Collection■ (価格は全て税抜/サイズは全て W1350×H2400×t17mm)



秋塘群雀図 (しゅうとうぐんじやくず) 4,152,000 円

粟の穂の身をついばむ雀たちを描き、実りの秋を表現した作品です。

下半分で描かれた粟の身をついばむ雀と、上半分で空間を覆うように描かれた同じ形の反復で舞い降りようとする雀が対象的に描かれています。

同じ雀でも自由に粟の穂をついばむ一羽一羽の可愛らしい姿と、粟の穂に向かう群衆の同じ姿の対比が、お互いを引き立たせています。

舞い降りる雀の中に一羽だけ混じっている白い雀は、吉祥を意味しています。

宝暦九年 (1759)

『動植綵絵』全三十幅 より 四

宮内庁 三の丸尚蔵館 所蔵



芙蓉双鶴図 (ふようそうけいづ) 4,152,000 円

動植綵絵のなかでも不思議な構図が特徴の作品です。

咲き乱れる芙蓉を背景に、雌雄一対の鶴が描かれています。

力強く弧を引く土手が墨で描かれ、そこに一本脚で立つ雄鶴。身体を反転させて後ろを振り向き低く身構えたポージングが、見ているひとを幾度となく惹き寄せます。

上下が逆になった雄鶴の頭の鮮烈な赤いとさかが、全体のワンポイントになっています。

背景の芙蓉はよく見ると数種類の品種が同じ白と濃いピンクのトーンを整えられ、深い緑色の葉は葉脈までもが一筆一筆丁寧に描写されています。

咲き乱れる芙蓉の花を啄む小さなルリカケスがアクセントとして沿えられています。

宝暦十一年 (1761) まで

『動植綵絵』全三十幅 より 十

宮内庁 三の丸尚蔵館 所蔵



南天雄鶏図 (なんてんゆうけいづ) 4,428,000 円

南天の鮮烈な赤と、軍鶏の奥行きのある深い黒の対比が美しい作品です。

赤い房を実らせた南天の実は、赤の表現にも微妙な調子がつけられ工夫をこらした表現になっています。

また同じく鮮烈な赤で描かれた軍鶏の鶏冠 (とさか) には白く小さな斑点を描くことで色調を合わせながらも、質感を分けています。

対する猛々しい軍鶏が身にまとう黒は、羽の光沢感を細かく描写することで、立体的に奥行きのある黒となっています。

軍鶏の鋭い爪や獰猛なくちばしと、燃え上がる炎のような南天によって動植綵絵の中でも一際力強い作品です。

明和二年 (1765)

『動植綵絵』全三十幅 より 十四

宮内庁 三の丸尚蔵館 所蔵



虎図 (とらづ) 3,766,000 円

家業の青物問屋を弟に譲って画業に専念し始めた年の記念すべき作品です。

若冲は画業に専念当初、千点もの中国画の模写を経て、写生に移行していったとされています。この虎図も、実際に日本には居ない虎を描くには模写せざるを得ないと、若冲自ら作品に一筆記しています。この3年後に代表作である動植綵絵に着手したとされています。

毛並みの一本一本を筆で繊細に描く模写であるにも関わらず、墨で更に細かな陰影を書き加えるオリジナリティを施しています。この技法は後の作品にも見ることができます。

宝暦 5 年 (1755)

プライス・コレクション 所蔵



孔雀鳳凰図 (くじやくほうおうづ) 4,428,000 円

2016 年、83 年ぶりに発見された幻の作品。

若冲の画業の中では早期、代表作である「動植綵絵」よりも前に描かれたと考えられています。

作品は二幅からなり、こちらはその鳳凰の一幅で、鮮やかな色使いが特徴です。素直で若々しく、細部まで施された綿密な描写が素晴らしい、初期の作品と『動植綵絵』をつなぎ、若冲の成長を伺わせる傑作のひとつです。

江戸時代中期 18 世紀中頃

広島藩浅野家 12 代藩主浅野長勲 旧蔵。

岡田美術館 所蔵

伊藤若冲 (1716 - 1800)

江戸時代中期の京にて活躍した絵師、写実と想像を巧みに融合させた「奇想の画家」として称せられる。作風は、多種多様の動植物を繊細に描き、さまざまな色彩と形態が重なることで織り成す、華麗な作品が特徴。そして色彩豊かでありながら絹地に染料と顔料を巧みに組み合わせた表現された全体のイメージは、淡い色彩にも深みが同居しています。

特に、若冲の特徴的な技法「裏彩色」は、絹地の裏からも着色することで全体の立体感や透明感を生み出し、繊細な描写と相まって動植物が生きている瑞々しさに溢れています。

代表作の「動植綵絵」全三十幅は、綿密な写生に基づきながら、近代のシュルレアリスムにも通じる幻想的な雰囲気が漂う。

また、当時の最高品質の画絹や絵具を惜しみなく使用したため、200 年以上たった 現在でも保存状態が良く、褪色も少ない。「動植綵絵」は、若冲が相国寺に寄進したものであるが、のち皇室御物となり、現在は宮内庁が管理している。

シチス | SICIS

1987 年、モザイクの街として知られるイタリアのラベンナで創業。「永遠の絵画」ともよばれる芸術的なモザイク文化を現在に継承し、数少ない“マイスター”と称される熟練の職人たちの手によって、アートのように美しいベネツィアンモザイクを生み出しているトップブランドです。

世界に 25 店舗のショールームを展開し、世界中でベネツィアンモザイクの品質の高さと技術が認められ、世界中のプレミアムホテルなどの商業施設や、住宅に採用されています。

シチスでは最高級の原材料を用いて、高品質なベネツィアングラスを生産しています。常に高い品質を保つため、製品はすべて、ラベンナの自社工場で生産されています。

また、すべてのシチスコレクションは、唯一無二のオリジナルカラー。貴重な鉱物をガラスに混ぜ、高温で溶かすことによって生まれる、シチスだけの色彩で製品を展開します。

伊藤若冲モザイク展

「SICIS 伊藤若冲コレクション」を集めた特別展を東京にて開催。新作 5 点を含め、トヨーキッキンスタイル系列の 4 店舗に若冲モザイクが集結します。
ぜひこの機会に各ショールームを巡り、モザイクアートの迫力と繊細さをご体感ください。

開催日 : 2 月 22 日(木)~

営業時間 : 11:00 - 19:00 (水曜定休・祝日の場合は翌木曜)

新作展示場所 : 下記ショールーム



トヨーキッキンスタイル東京ショールーム

展示新作 : 「南天雄鶏図」

東京都港区南青山 3-16-3

TEL 03-5771-1040



シチス・トヨーキッキンスタイル

展示新作 : 「秋塘群雀図」「虎図」

東京都港区南青山 5-3-5 ミル・ロッシュビル B1F

TEL 03-3406-1040



モーイ・トヨーキッキンスタイル

展示新作 : 「芙蓉双鶏図」

東京都港区南青山 6-11-1 スリーエフ南青山ビル

TEL 03-3400-1040



ラ・クチュール トヨーキッキンスタイル

展示新作 : 「孔雀鳳凰図」

東京都港区南青山 6-11-1 スリーエフ南青山ビル

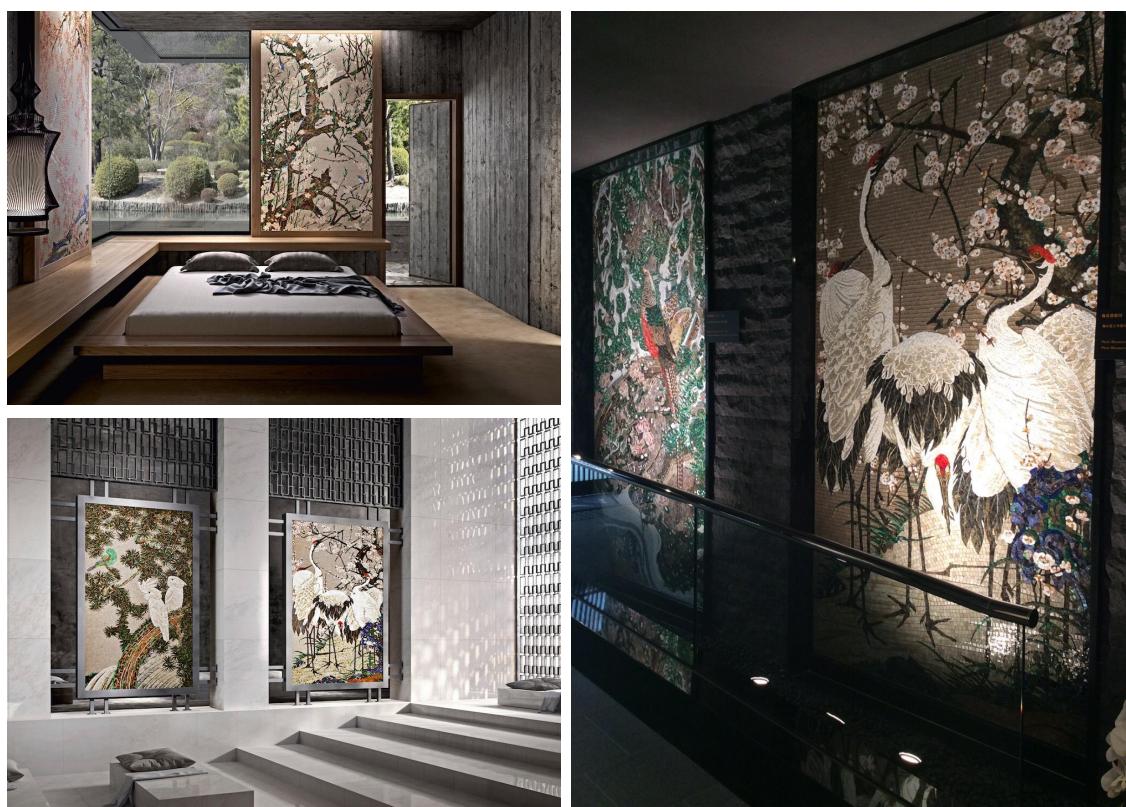
TEL 03-5778-3720

〈制作風景〉



イタリア・ラベンナの工場の熟練したモザイク職人が吟味したモザイクを1枚1枚手割りし制作しています。

〈使用イメージ〉



↑ ホテル「アルザ 京都」エントランス施工例

※制作風景・使用イメージに写っている製品は2014年に発表したものです。

《読者お問い合わせ先》

トヨーキッチンスタイル TEL:03-6438-1040

《プレスお問い合わせ先》

〒107-0062 東京都港区南青山5-16-5 MA FIVE 2F

株式会社トヨーキッチンスタイル 広報・宣伝部

info@toyol.toyokitchen.co.jp TEL:03-6438-1040 FAX:03-3400-1070